

3 中学校国語に関すること

(1) 全体的なこと

平均正答率について

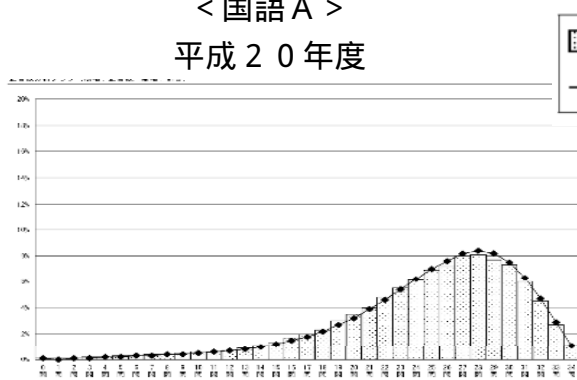
教科	国語 A			国語 B		
	19年度	20年度	21年度	19年度	20年度	21年度
千葉県	81.6	72.8	76.8	72.0	61.6	74.6
全国	81.6	73.6	77.0	72.0	60.8	74.5
差	0	-0.8	-0.2	0	+0.8	+0.1

平成21年度の中学校の国語の正答率は、過去2年間同様、A・Bともに全国とほぼ同程度である。

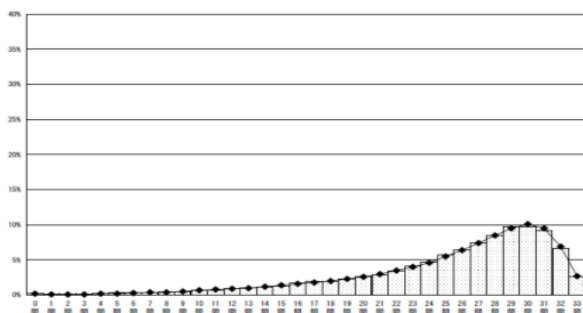
正答数の分布について

<国語 A>

平成20年度

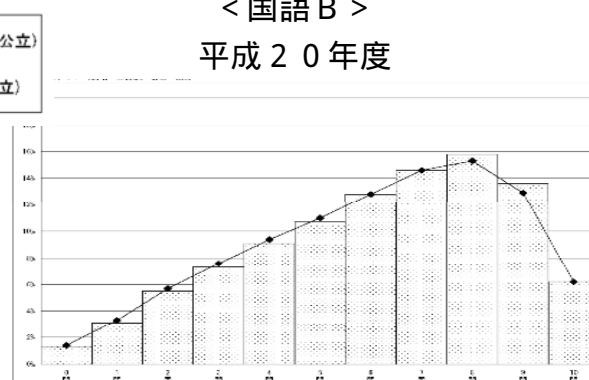


平成21年度

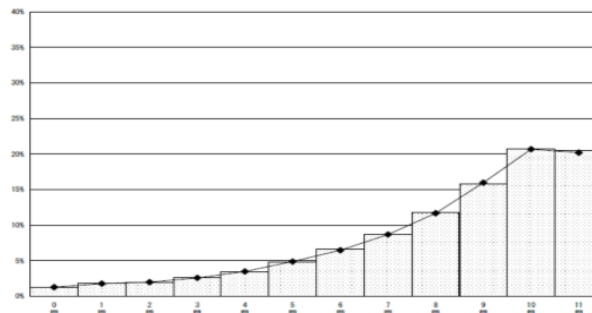


<国語 B>

平成20年度



平成21年度



(平成21年度の分布について)

平成21年度中学校の国語 A 及び B の正答数の分布は、全国とほぼ同じ形である。

標準偏差について

教科	国語 A			国語 B		
	19年度	20年度	21年度	19年度	20年度	21年度
千葉県	5.7	5.9	6.1	2.5	2.5	2.7
全国	5.5	5.8	6.1	2.4	2.5	2.7
差	+0.2	+0.1	0	+0.1	0	0

平成21年度中学校の国語の標準偏差は、A・Bともに全国と同程度である。

中央値について

教科	国語 A			国語 B		
	19年度	20年度	21年度	19年度	20年度	21年度
千葉県	32.0	26.0	27.0	8.0	7.0	9.0
全国	32.0	26.0	27.0	8.0	6.0	9.0
差	0	0	0	0	+1.0	0

平成21年度の中学校の国語の中央値は、A・Bともに全国と同程度である。

(2) 設問別について

県平均正答率が80%以上の設問について

平成21年度<国語A>

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	千葉県正答率	全国正答率	差
2二	スピーチの特徴の説明として適切なものを選択する	効果的なスピーチをするために話の展開の仕方を工夫する	89.3	88.1	+1.2
3一	物語の展開の順番どおりに出来事を並び替える	本文の展開に即して内容をとらえる	89.9	89.5	+0.4
3二	僕とカムパネルラが知っていることの説明として適切なものを選択する	本文の表現の仕方や特徴に注意して、内容を正確に読み取る	86.5	85.2	+1.3
3三	先生の質問に答えなかったカムパネルラが、僕のことをどう思っていると考えたかが書かれている部分を本文中から抜き出す		84.8	84.1	+0.7
4一	先生の話から必要な情報を聞き取り、メモをとる	話の内容から必要な情報を的確に聞き取る	92.2	92.7	-0.5
4二	足りない情報を得るための質問として適切なものを選択する	聞いた話の中に必要な情報が含まれているかを判断し、適切に質問する	91.7	90.9	+0.8

6一	目次の特徴とそれを使ってできることの説明として適切なものを選択する	目次の特徴や役割を理解する	85.6	85.4	+0.2
6二	調べたい事柄が書かれている章を選択する	目次を読んで、必要な情報がどこにあるか見当を付ける	81.5	81.2	+0.3
7二	短歌について書かれた文章の空欄に当てはまるものとして適切なものを選択する	語句の意味を理解する	83.6	83.6	0
8一2	漢字を書く（ <u>ジシャク</u> を使って方位を調べる）	文脈に即して漢字を正しく書く	83.2	84.0	-0.8
8二1	漢字を読む（空気の <u>抵抗</u> がある）	文脈に即して漢字を正しく読む	98.2	98.2	0
8二2	漢字を読む（ピアノで <u>伴奏</u> をする）		87.2	88.9	-1.7
8二3	漢字を読む（ <u>真実</u> に迫る）		90.5	91.0	-0.5
8三ウ	適切な敬語を選択する（お客様、どうぞこの洋服を <u>おめし</u> になってください）	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う	86.1	85.9	+0.2
8三オ	適切な接続詞を選択する（たとえ <u>そう</u> であっても）		92.3	92.2	+0.1
8四	意味は変えずに、主語を変えて書き換える	動作の受け手を主語にした受け身の文に書き換える	82.4	82.6	-0.2

平成21年度<国語B>

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	千葉県正答率	全国正答率	差
1ーアイ	子ども図書館案内図を見て、特定の本を借りるために行くべき場所を選択し、その場所に行く理由を書く	書かれている内容をとらえ、資料に基づいて自分の考えを説明する	80.2	79.6	+0.6

3-A	表に当てはまる一行を	語句に注意し，その効	91.4	91.4	0
3-B	詩の中から抜き出す	果的な使い方に気付く	90.6	90.6	0
3三	詩と組み合わせる写真を一枚選び，その写真と組み合わせる理由を詩と写真を関連付けて書く	詩の内容や構成，表現上の特徴などを踏まえて写真を選び，詩と関連付けて自分の考えを書く	80.9	80.8	+0.1

効果的なスピーチをするために話の展開の仕方を工夫すること，話の内容から必要な情報を的確に聞き取ることは，多くの生徒ができている。

詩の内容や構成，表現上の特徴などを踏まえて写真を選び，詩と関連付けて自分の考えを書くことは，多くの生徒ができている。

文学的な文章の内容を展開に即してとらえること，目次の特徴や役割を理解することは，多くの生徒ができている。

詩の中の語句に注意し，その効果的な使い方に気付くことは，多くの生徒ができている。

文章に即して漢字を正しく読むこと，辞書に書かれている情報を適切に読み取ることは，多くの生徒ができている。

全国平均より大幅に高い（5ポイント以上，上回っている）設問について
平成19年度＜国語A＞

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	千葉県正答率	全国正答率	差
8二3	漢字を読む（入会を <u>勧め</u> る）	文脈に即して漢字を正しく読む	72.8	66.2	+6.6

平成20年度＜国語A＞ ・該当なし

平成21年度＜国語A＞

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	千葉県正答率	全国正答率	差
8三カ	適切な同音異義語を選択する（来賓の <u>シュクジ</u> は，特に印象に残っている）	語句の意味を理解し，文脈の中で適切に使う	79.2	72.4	+6.8

平成19年度～21年度＜国語B＞ ・該当なし

全国平均より大幅に低い（5ポイント以上，下回っている）設問について

文部科学省は全国平均より（5ポイント以上，下回っている）場合には課題があるとしている。

平成19年度<国語A>

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	千葉県正答率	全国正答率	差
8-1	漢字を書く（会社の <u>リ</u> エ <u>主</u> をあげる）	文脈に即して漢字を正しく書く	63.1	68.2	-5.1

平成20年度<国語A>

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	千葉県正答率	全国正答率	差
6-2	漢字を書く（富士山を <u>ハ</u> イ <u>ケ</u> イに写真をとる）	文脈に即して漢字を正しく書く	70.9	77.5	-6.6
6ハイ	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す（みたり）	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む	76.3	81.7	-5.4

平成21年度<国語A>

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	千葉県正答率	全国正答率	差
8-3	漢字を書く（燃料を <u>オ</u> ギ <u>ナ</u> う）	文脈に即して漢字を正しく書く	43.8	53.7	-9.9
8五1	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す（むかひて）	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む	69.8	75.9	-6.1

平成19年度～21年度<国語B> ・該当なし

国語Bについては、全国と比べて5ポイント以上、下回っている設問はない。

国語Aについては、3年間とも漢字の書き取り（言語事項）が一問、20年度、21年度の歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む（読むこと）問題が一問、5ポイント以上、下回っている。

千葉県の平均正答率が50%に満たない設問（平成21年度）について
（半数以上の生徒が理解できていないことであり、課題があると考えられる設問）

<国語A>

設問番号	学習指導要領の領域等	設問の概要	千葉県正答率	全国正答率	差
7-1	読むこと	短歌について、言葉のつながりや意味の上から切れめを付けたものとして適切なものを選択する	30.6	28.9	+1.7

8 三ア	言語事項	適切な語句を選択する（急いでいるときは、靴をはくのも <u>もどかしい</u> ）	49.1	49.3	-0.2
------	------	---	------	------	------

< 国語 B > ・該当なし

(3) 分類・区分別集計について

平均正答率の比較 （± 5 ポイント 以上のもの）

平成 19 年度～ 21 年度 < 国語 A > ・該当なし

平成 19 年度～ 21 年度 < 国語 B > ・該当なし

全ての分類・区分において正答率は全国とほぼ同程度である。

無解答率について （± 5 ポイント 以上のもの）

平成 19 年度，20 年度 < 国語 A > ・該当なし

平成 21 年度 < 国語 A >

設問番号	学習指導要領の領域等	設問の概要	千葉県無解答率	全国無解答率	差
8-3	言語事項	漢字を書く（燃料を <u>オギナ</u> う）	30.1	22.6	+7.5

平成 19 年度～ 21 年度 < 国語 B > ・該当なし

平成 21 年度の漢字の書き取り（燃料をオギナう）の問題の無解答率が，全国を 5 ポイント以上，上回っている。

(4) 中学校国語の課題

主として「知識」に関する事項について

- ・ 主語（主部）に対応させて述語（述部）を適切に書くこと。（書くこと）
- ・ 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに正しく直して読むこと。（読むこと）
- ・ 短歌の形式に従って意味のまとまりをつかむこと。（読むこと）
- ・ 文脈に即して漢字を正しく書くこと。（言語事項）
- ・ 語句の意味を理解し，文脈の中で適切に使うこと。（言語事項）

主として「活用」に関する事項について

- ・ 資料に表れている工夫を自分の表現に役立てること，文章から読み取った情報を簡潔にまとめて書くこと。（書くこと）
- ・ 説明的な文章と補助資料とのかかわりを理解すること。（読むこと）

(5) 主な対策

主として「知識」に関する事項について

- ・漢字学習においては、情報機器の活用や興味関心を高めるワークシートの活用等により確実な定着を図る。
- ・古典の学習においては、多くの文章に触れ、音読を徹底して行わせるとともに、暗唱を積極的に行わせる。
- ・家庭学習として漢字の練習や文章の音読練習などを課す。
- ・普段から国語辞典や漢和辞典を積極的に活用する指導が必要である。家庭でも、手の届くところにこれらの辞典を置き、分からない語句などをこまめに調べる習慣を付けるよう促す。

主として「活用」に関する事項について

- ・非連続型テキスト*を用意し、複数の資料の関わりや複数の資料を総合して読み取れることをとらえさせる学習を取り入れる。
- ・学校図書館を計画的に活用する。また、読書の中から得た、優れた表現等を自分の表現に取り入れる練習を行う。
- ・注意する点を明確に示した上で、自分の書いた文章等を実際に推敲する場を設ける。
- ・国語科及び特別活動や総合的な学習の時間等において、課題解決に必要な情報（資料）を収集し、その中から目的に応じて情報を整理したり取り出したりする活動を行う。その後資料からわかったことや考えたことをノートにまとめたり、話し合ったりする場を設ける。

* 非連続型テキストとは、文章以外の図やグラフ、表、地図などをさす。

(6) 小・中学校の関連について

- ・新しい学習指導要領を意識し、小学校の授業においても、発達の段階に応じて、積極的に古典学習を取り入れ、音読を繰り返し行う学習等により、低い年齢のうちから美しい日本語の響きに慣れさせるようにする。
- ・国語科の授業において、漢字練習等の言語事項もきめ細かに行う。加えて、できるだけ児童生徒の能力に応じた課題に取り組みせるよう心がける。
- ・非連続型テキストの活用については、国語科のみならず、全教科・領域で取り組んでいく必要がある。
- ・小学校・中学校を通じて読書活動を積極的に行わせるようにする。そのために、学校図書館の活性化は欠かせない。

(6) 正答率の低い設問例 (中学校国語 A の設問より)

① — 線部「この絵の特徴は、どの角度から見ても女性と目が合います。」は、「この絵の特徴は」と「目が合います」との言葉の関係が不適切です。この文の内容を変えないように、「合います」の部分を通じて書き直さない。

① 田中さんは、絵の鑑賞文を書き始めています。田中さんが書き始めた文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「モナ・リザ」
レオナルド・ダ・ヴィンチ作

これは、レオナルド・ダ・ヴィンチが描いた「モナ・リザ」という絵です。この絵の特徴は、どの角度から見ても女性と目が合います。

① 田中さんは、絵の鑑賞文を書き始めています。田中さんが書き始めた文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

設問の趣旨

主語（主部）に対応させて述語（述部）を適切に書く

正答率 51.5% (全国 49.8%)

無解答率 5.1% (全国 5.6%)

学習指導について

第1学年の「書くこと」において「書いた文章を読み返し、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、読みやすく分かりやすい文章にすること」について、第2学年及び第3学年の「言語事項」において「文の中の文の成分の順序や照応、文の組立てなどについて考えること」について指導する。

具体的には、文章を推敲する学習場面を設定し、推敲する際に注意する点を明確に示した上で、具体的な文の中で、どのように直せばよいかを考えさせる。また、その際、文と文、段落と段落のつながりなど文章の組立てに目を向けさせることも効果的である。

(平成21年度全国学力・学習状況調査 中学校「授業アイデア例」国立教育政策研究所教育課程研究センター作成 参照)

(7) 正答率の低い設問例(中学校国語Bの設問より)

2 堀川さんは、「発光ダイオード」について調べていることになりました。次の文章〔A〕は、堀川さんが読んだ本の一部です。①から⑥は、段落の番号を表します。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

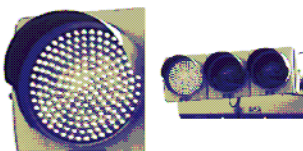
〔A〕

① 最近、新しい信号機が増えてきたことに気付いているだろうか。これまでの信号機と違い、新しい信号機には小さな緑のようなものがたくさん付いている。(写真参照)。この小さな緑は、発光ダイオードというもので、昔々「ルミキ」という点交じから、近年様々な分野で使われるようになってきた。発光ダイオードは「ろうそくやランプなどの炎」、「白熱電球」、「蛍光灯」に続く、次世代の明かりとして注目されている。この発光ダイオードの特徴について詳しく見てみよう。

② まずは、消費電力が少ないということが挙げられる。発光ダイオードと白熱電球を比較してきたみよう。白熱電球は、フィラメントに電流を流して光を発生させている。一方、発光ダイオードは、半導体に電流を流して光を発生させる。その際、どちらも熱が発生するのだが、白熱電球に比べて発光ダイオードの方が、発生する熱が少なくて済み、白熱電球よりも効率的に、電気エネルギーを光に変えることができるのだ。

③ 次に、小さいということが挙げられる。信号機の写真からも分かるように、発光ダイオードの一つ一つの大きさは、従来の白熱電球に比べてはるかに小さい。この小さいという特徴を生かして、携帯電話の着信ランプや携帯型ゲーム機の光源(バックライト)などに発光ダイオードが多く使われている。

【発光ダイオード式信号機】



④ これまでの電球式信号機では、およそ一年に一回電球を交換する必要があった。しかし、発光ダイオード式信号機の場合は、六年から八年に一回で済むと言われている。このように発光ダイオードには、寿命が長いという特徴もある。

⑤ 最後に発光ダイオードには、カラー発光する(特定の色の光を出す)という特徴がある。朝や夕方などに太陽の光が当たって、信号機が三色とも光って見えるという経験をしたことはないだろうか。これを疑似点灯現象(点灯していないのに点灯しているように見える現象)といい、これまでの電球式信号機に多く見られる現象であった。白熱電球は白色光のため、赤や黄色などの色のついたレンズをかぶせている。さらに反射鏡を利用することで、白熱電球の光を、方向に集め、信号機として使用している。この信号機に太陽の光が当たり反射すると、疑似点灯現象が起こる。一方、発光ダイオードは、カラー発光するので、色のついたレンズを使う必要はない。だから、点灯していない色までもついているように見えることは避けられる。このことにより、発光ダイオード式信号機は、交通安全に役立つという効果も期待されている。

【発光ダイオード】



*上の発光ダイオードの全長は約35mm、発光部は約9mm。

⑥ 電車やバスの行き先表示板をはじめ、町の中や競技場のディスプレイなどにも広く使われるようになってきた発光ダイオード。克服しなければならぬ課題もあるが、今後ますます私たちの身近な存在になっていくだろう。

〔注〕 フィラメント電球: 点灯管の内部にフィラメントを通電して、光・熱を放射させる種類の細い管。

二 堀川さんは、発光ダイオードの特徴についてノートにまとめることになりました。文章〔A〕に書かれている発光ダイオードの特徴を、次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

条件1 発光ダイオードが次世代の明かりとして注目されていることが分かる特徴を書きなさい。

条件2 簡潔書きで三つ以上書くこと。

設問の趣旨

文章から必要な情報を読み取り，簡潔にまとめて書く

正答率 66.4% (全国66.4%)

無解答率 13.5% (全国13.1%)

学習指導について

第1学年の「書くこと」において「伝えたい事実や事柄，課題及び自分の考えや気持ちを明確にすること」について，また，同「読むこと」において「文章の展開に即して内容をとらえ，目的や必要に応じて要約すること」について指導する。

具体的には，まず，身の回りにある商品等に書かれた個条書きを利用し，箇条書きの特徴をとらえさせた後，説明的な文章等を読み，要点等を箇条書きでまとめていく練習をさせる。また，読み取った事柄を箇条書きで書くことを，日々の学習に生かすよう指導すると更に効果的である。(平成21年度全国学力・学習状況調査 中学校「授業アイデア例」国立教育政策研究所教育課程研究センター作成 参照)

学校で取り組んでほしいこと

調査問題を全職員で共有する

各学校において、校内研修等により全職員で調査問題を共有することが望まれる。「問題の作成に当たっては、学習指導要領に示されている内容が正しく理解されるよう留意するとともに、子どもたちに身に付けさせたい力として重視されるものについての具体的なメッセージとなるように努めた。」と文部科学省が発表したとおり、これらの調査問題を見ることにより、新しい学習指導要領で求められている力が具体的に理解できる。

特に「問題B」については、国語科における言語活動が具体的にイメージできるとともに、国語科のみならず、他教科等における言語活動の可能性を示唆している。

中学校においては教科担任制であるが、このような点から、国語科の教職員のみならず、全職員でどのような問題が出題されているかを知ることが大変意味あることと考える。このことにより、各教科等における言語活動の充実が期待できる。

自分たちの学校の生徒の課題を把握する

生徒一人一人の結果を本人及び保護者に知らせることが大切である。同時に、学級としてはどのような傾向があるのか、学年全体としてはどうかを分析し、併せて保護者に知らせたい。例えば、生徒質問紙の中の「家や図書館で、普段（月～金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、読書をしますか。」や「昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために、学校図書館や地域の図書館へどれだけ行きますか。」等の読書に関する質問の結果を、全国平均と比較してみるのもよい。可能であれば、学校ごとに「読書は好きですか」の回答と国語の正答率の関係を出してみるのも、興味深い。また、生徒質問紙における注目すべき質問事項については、3年生以外の学年でもアンケートを実施し、学校全体としての傾向をつかみ、今後の教育活動に生かしていくことも考えられる。

「ちばのやる気」学習ガイドを有効活用する

県教育委員会作成の「ちばのやる気」学習ガイドを使えば、更に、詳細な課題を把握することができる。「ちばのやる気」学習ガイドは、5教科について、それぞれ具体的に「到達目標」が示されたものである。また、それぞれの目標に対して、生徒が自分でつまづきをチェックできる問題「ステップチェック」が付いているので、是非授業や家庭での学習で利用してほしい。（平成22年3月に、中学校1年生の5教科の「ちばのやる気」学習ガイドを各中学校に配付済み。また、年に2回、「ちばのやる気」学習ガイドに基づいた「評価問題」をインターネット上に配信する予定。）

生徒の課題を解決するための対策を講じる

学級ごとに、または、学年ごとに、さらには学校全体として取り組んでいくべき対策を講じる。その際、場面に応じて、研究主任や教科主任、教頭や校長をリーダーとし、組織的に取り組んでいくことが重要である。

また、国語科の担任は、生徒一人一人について、各々の課題に合った対策をアドバイスしてほしい。その際、学級担任と連絡を密に取りながら、家庭学習の方法等についても言及したいところである。

全校で取り組んでほしい対策

ア 各教科等における言語活動の充実

新しい学習指導要領の改善点に「各教科等における言語活動の充実」があげられ、今後は、言語活動を各教科等の指導計画に位置付け、授業の構成や進め方を改善する必要がある。

研究主任や国語科の教師が中心となって、各教科等で言語活動を授業に導入するための方策を校内研修等で検討していきたい。

特に、平成22年2月19日に千葉県総合教育センターで行われた、千葉大学教育学部伊坂淳一教授の講演の資料には、学校における具体的な取組の参考になる。

このことについては、本報告書、小国語P13～P17に示しているのので、ぜひ参考とされたい。特に、授業を行うにあたり、P17に示されている「各教科等における言語活動の充実への対応案」を利用し、「言語活動の充実」の要素を明確にすることが重要であり、このことにより、意識的、継続的に行い、可視的な記録として蓄積が可能となる。

国語科以外の教科における言語活動は、各教科の学力・技能を実現させるための方法・手段であることをおさえた上で、全教科共通で取り組むべきことや、各々の教科で取り組むべきことなどを、検討を重ねながら導入したい。

イ 学校図書館の計画的な活用

生徒質問紙において「読書が好き」と答えた生徒の方が、国語の正答率が高い傾向が見られる。(算数・数学についても同じ傾向が見られる。)

そこで、学校図書館を活用した授業を、国語科のみならず各教科等において実施してほしい。そのためには、学校図書館を活性化させなければならない。その具体的な方法は、すでに各小中学校に配付済みの「学校図書館の活性化を目指して」を参考にされたい。特に、その中の「学校図書館自己評価表」を有効に使い、学校全体で学校図書館を整備してほしい。来年度は、活性化されている学校図書館には県から優良マークを発行する予定であるが、全ての学校が優良学校図書館を目指して、整備、活用に努めていただきたい。

ウ 自分の考えを発表する機会のある授業を

生徒質問紙において「普段の授業で自分の考えを発表する機会が与えられている」と答えた生徒の方が、国語の正答率が高い傾向が見られる。(算数・数学についても同じ傾向が見られる。)

また、新しい学習指導要領でも述べられているように、今後は、各教科等において、対話、発表、記録、要約、説明、論述といった言語活動を積極的に取り入れることにより、言語に関する能力を高め、思考力・判断力・表現力等の育成に力を注いでいく必要がある。

このようなことから、各教科等において発表等の言語活動を積極的に授業に取り入れていく必要がある。

エ 各教科等においてノートを丁寧に書かせる授業を

生徒質問紙において「授業でノートを丁寧に書いている」と答えた生徒の方が、国語の正答率が高い傾向が見られる。(算数・数学についても同じ傾向が見られる。)

また、書くことで自分の考えが整理されたり、明確になったりする。さらに、書くことにより、論理的な思考力や判断力、表現力が育成される。

このようなことから、各教科等において、自分の考えをノートにまとめさせるなど、日ごろから書くことを授業に取り入れ、書く習慣を付けていくことが大切である。

オ 適切な家庭学習を与える

読書を家庭学習として課し、読書記録カードに、家で読んだ本のタイトルやページ数、内容等を簡単に記録させ、「家読(いえどく)」を推奨する。また、日記を書かせたり、新聞の記事に対してのコメントを書かせたりする。このような例を参考に、生徒の発達の段階に応じた適切な課題を家庭学習として課すことは重要である。【参照：県教育委員会ホームページ「学力向上のための取組～家庭学習を考えよう～」】

家庭での生活習慣や家庭学習については、全校の保護が一堂に会した保護者会等でその大切さを説明し、理解を求めるなど家庭と連携して取り組みたい。

カ 小・中学校の連携を意識する

小・中学校の連携を意識し、学習指導を行っていくことも大切である。学校図書館に小学校の教科書を置くなどして、中学校の教職員が小学校で学習する内容を知ったり、中学校区内の小・中学校が合同で研修会を開催するなどして、9年間を見通した系統的な学習指導ができるようにしたりすることも視野に入れることが大切である。